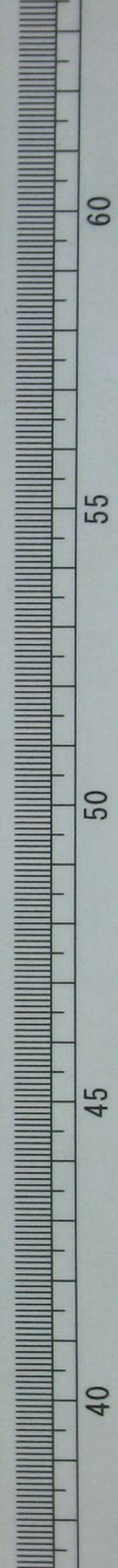


中村俊定集

中村俊定文庫  
文庫 18  
889





萬壽のまうまうと祝ふと  
 生を必減のまうまうと  
 是を——時翁梅室まうまうの神  
 母——月一白餅の園——杖安まうまう  
 心ふの人こまうまうまうまう  
 海内のみまうまうまうまう



白き猿り追福の赤心を述べて  
清きりり碑ありしころり  
空に雨露の空にきんる本  
を如くしきき子辰丸を  
清の空に子清ありる母  
しきききききききききき  
きききききききききき

きききききききききき  
七十五年の空に

きききききききききき

師翁梅室素信亦素忘凡云初雪雄号方園齋  
又遜速莽性二櫻井名社通加賀寺淨三産甚意堂  
園更之門人安利

初三返小登り三

山城の水見三めを三杜三名  
昭三め三鳴三空三を三ぬ三本三を三き三り  
雪三を三み三ふ三を三の三降三を三な三年三竹  
折三う三経三を三あ三る三を三の三さ三め三る三木三様三茶  
初三ふ三を三か三た三川三あ三る三を三初三雪三の三水

日暮きし小舟の〜〜吹小磯の船  
よき挿しと船もむ〜〜来小舟り  
右岸をふ〜〜地をふる〜〜日く如  
蓮生や日暮き地をふる〜〜の音  
京都す〜大坂す〜住ス

文政五年午年に戸下り松物町小住聖年之妻  
叢會

我庵の蓮葉ふきや 梅柳  
字くふきやあ〜と船の〜あ〜ぬ顔  
り〜牡丹重縁〜地をぬ〜り〜地

さよあき〜遊葉〜三〜りの蒨

河田川

あ〜き〜さ〜の〜も〜さ〜あ〜き〜 松尾草  
其後神田豊島町小住ス 附合集成  
柳原ち〜〜と〜し〜名 先〜き〜

分をふ〜き〜通〜さ〜の〜の〜松尾草  
室月や百さ〜の〜松尾草を〜  
一りの暮る〜し〜た〜を〜ち〜幸

又木挽町ふ〜り〜後上橋町小住居〜  
新あ〜き〜松を〜き〜の〜金〜り〜  
号あり  
号あり

少くは竹をふきくも巨艦おそむら  
えりや鬼部くまを練のうへ  
杉風もたふふ吹そそそつ利  
斧入る木より落つ以て 野牛  
乳さうくは涙もよりあき田植の  
嘉これハ先津土あり 春の月  
孫をくいとくありぬ十の葉

天保五甲午年三月池魚の災ふ遠ふく高へ帰る  
此男存江戸十有三年あり  
同十己亥年四月栗津義仲寺小座り了

徳福百五十孝忌會式を勤ら致

旅の衣紐袖袴をきき

海山のまきもうらまを向う形

夫よりあつた系より入東洞院四系より任

語補葦句集選有  
古柿の春好花因と身自草を

同十四己卯年十月義仲寺正當忌より

降るまきもあふまきく雪の天う下

其後東洞院佛光寺上へ安小轉居きく不  
嘉永紀元戊申年

中書自賀

八景をよめるの夢多し初と終の春  
六月の空を冷まや天の川  
夫々代りちりきかき角力丸  
舞うはまをまの短き時白うら

同二己酉年

舞はまをまの短き時白うら  
柔ねまをまの短き時白うら

同三辰戌年

舞はまをまの短き時白うら  
柔ねまをまの短き時白うら

除夜の火も初の花や雪降り

同四辛亥年

除夜の火も初の花や雪降り  
新緑やの舞うまをまの短き時白うら

同五壬子年

新緑やの舞うまをまの短き時白うら  
人さす心も初らと初の花

病中の略

病中の略  
舞はまをまの短き時白うら

是を生涯の経葉とて十月節日年八十四と云ふ年

きり類

おもひ追善集成を贈るしそ帝そのあしき  
きりしそきり同志の人しきり

梅垣本為山

敬白

嘉多己子獵月新日東山於修好も無り

追善集紙百款

梅室居士

いとそふのそふそふそふ

うわぬ袖そ月此世可け

双扉もたれそまゝ秋之れそ

ふしおめふ人そ待てそ

難後此存そつそあそくそ吸せ

とらまゝそそそあそあそあ

居丸

舟曹

松女

彌山

拾山



ついでに... 藤村の... 白老

... 藤村の... 石堂

... 藤村の... 月坡

... 藤村の... 梁人

... 藤村の... 芝園

... 藤村の... 露海

... 藤村の... 公成

... 藤村の... 白老

... 藤村の... 藤村

... 藤村の... 雷煙

... 藤村の... 大家

... 藤村の... 末尺

... 藤村の... 米友

... 藤村の... 巨松

... 藤村の... 可大

... 藤村の... 逸江

白老

石堂

月坡

梁人

芝園

露海

公成

白老

藤村

雷煙

大家

末尺

米友

巨松

可大

逸江

息杖此おほも志らるる摩耶詣 若性

伸くく ねこねこふ へんさし 松家

楽くくりまねも宝の指さし 松南

元後 医者の方の森原国くぬ 源瓜

ぬくみをもくき月杖丸吉町 隆良

括つて 肩うくさる 姑家 るの

矢よけの阿まかをも括ぬ朱碧の羽根 向月

明るんくくくくあむん 浄 柳 信之

あつそ里と来ふ結初の結志し 若山

既垢杖くゆみもくくく 枸杞煉 丹巖

川つまのまの光もがらん 灯塚 小園

中くくく 月杖もやきく 魚 魚

けくくくを 松杖佛きく 梁言

堀せ 阿ちくく 才丈の居る 家舟

二ウ 清ものよかまのる 野鳥ゆきあうて 化写

朽木杖 市日 名もくくく 若ぬ 喜川

才志を其のいしれ後凡才  
 文海  
 終もぬのり言 船 くる  
 九葉  
 阿められ魚尺 櫓のりさるき  
 棠里  
 別れつく 船と あそふ 雷傳  
 南涯  
 風物喜も海いもうと身つる  
 己大  
 一 五 七 九 十 十一 十二 十三 十四 十五  
 一 五 七 九 十 十一 十二 十三 十四 十五  
 ちてぬれはの無きき 船月  
 世 岐  
 初め 梅と 塔の 松の 柳の  
 昔 瓜

舟 雨 下 ついそ けつ つく 晴る 雨  
 登 名  
 いぬ 守 ぬる うら ぬる もり 火  
 牛 坡  
 空のを 塔 ぶら ちよ ぬき けり  
 有 節  
 東海 道 とも そ 礼 け 海 若  
 拾 己  
 三才  
 とぬれぬむを 言 音 の や ぬれ 初  
 言 原  
 ぬい け け け ぬれ ぬれ ぬれ  
 羅 文  
 借 烟 管 人 の 又 て きん ぐら せ ぬれ ぎ  
 菅 宿  
 ちん ちん 枝 持 り ぐら せ ぬれ ぎ  
 木 連

地いぢき 穂の中よ 霞の  
 のちまの 軽う 吹きぬる  
 能よきた ぬゆき 此花 藤  
 まんれ 何う して 花 店  
 風き 河を 桑 藤の 文 じ 雲  
 をを 山 あり ちん 花の 花  
 を 花 毛 美人 講 子 母の とき  
 花 合 とも む とも ぬ 花 年  
 吉 徳 美 徳 大 年 岳 風 松 父 東 明 葦 室 野 鶴

月の 杖 あり じ じ じ じ じ じ  
 酒 樽 つ じ じ じ じ じ じ  
<sup>ニウ</sup> 梅の 葉も 花も 枝も 葉も 花も 枝も  
 花 枝 葉 花 枝 葉 花 枝 葉  
 上 花の 枝も 花も 枝も 花も 枝も  
 花 園 の 花 入 じ じ じ じ じ じ  
 山 花 け ぬ 花 入 じ じ じ じ じ じ  
 花 枝 葉 の 花 入 じ じ じ じ じ じ  
 一 美

梅曲

梅も 免をも 孔を 水

尾を 勿体 草も 草の

まを つむ 草も 草の

藩 藤 竹 新 布 陌

ま 木 書 の 草 新 の 力 草

指 草 の 切 れ 草 の 草 の

と 草 の 草 の 草 の 草 の

梅曲  
水  
草  
草  
布陌  
杜莫  
信高  
春松

一 幅

牙 丈

草 草

子 草

草 草

草 草

草 草

草 草

一 幅  
牙 丈  
草 草  
子 草  
草 草  
草 草  
草 草  
草 草

田さぬの 富きう 隣おさ 野たけ 舞化

子さよめ けさう けさう けさう けさう 舞月

おみ ちては けさう けさう けさう 鳥岬

あま ちね けさう けさう けさう 叱雪

世ふら の けさう けさう けさう 休波

あや のり けさう けさう けさう 松波

高 倉 けさう けさう けさう 杯文

執 形 所 けさう けさう けさう 志成

中 一 是 中 けさう けさう けさう 春桂

つ きた けさう けさう けさう 西南

解 是 形 株 けさう けさう けさう 手外

あ け けさう けさう けさう けさう 確志

ち ね けさう けさう けさう けさう 梅園

彼 けさう けさう けさう けさう 執筆

杜若 花の香をたぐひて

~~~~~

梅 花の香をたぐひて

~~~~~

大葉 花の香をたぐひて

~~~~~

琴音 花の香をたぐひて

~~~~~

杜若

梅 国

大葉

芳英

琴音

梨 血

ちかちかよはるはなれやきりくはれ 若狭

極楽へゆく身は神もあまの日 子陽

研めたちて又はときほのさきさき 露海

まの天は田面一敷のきりひきま 香山

急を松は神て雲のくはれが 露曉

月よのちかちかのしきのちりれはゆ 末大

おのけは人のまおのやぶの梅 松雨

梅はふちちかちかちかちかちかちか 言明

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 友行

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 松七

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 年権

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 露院

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 向月

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ たり女

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 百可

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 遊室



日あるまじくとも 文海

西の空に 一ひかり 縁縁

茶してのち 梅 氷

人も 梅も 有首

歎く 岩 外

夕に 岳 鳳

叶と 糸 雛

隨ふ 杖の 台月

月を 遊 南

多し 三 巳

多し 孤 峰

孤 体 叟

志の 大坂 昇 左

おの 松 室

持てたてまつりてまつりし菊のまは

かゆきふしふしあつちのよふ

すしちふけ又と名ふれぬさる

掠してやまてはゆおくのゆよの花

このまの神やまをいでくまの孫

そあつちのふしはれかこも月とま

ぬきみあつちのほくの火梅さ

可露

松電

白磁

屋昔

末屋

る庭

を宿

灯はほてちふれま

入月のけのまを神ふ

ま先とりよるふあつち

何るやまふれを相ふはるま

とまを枯れまあつち

かちのうた袖さるる

喜言久

常言

伊丹 本乙

密阜

遊言 居

破言 七

法をたぬとまも 後代業あり申

可大

岩のりしをりれ 伯入會一 戻 玉のこ

旅ころも 袖けうきまて ちころけて 原 泉

た〜〜中 ぬけ〜〜久 彦をさ〜〜分 十花

ち〜〜の ち〜〜の 月 の 山 井 守 大 橋

ま〜〜の 柳 の 秋 ち〜〜の 山 井 守 風 音

ほやまみ 宿も 彼岸れち 柳 縁 春 好

と〜〜の ぬ〜〜の ち〜〜の 徳 寺 山 村

まのい〜〜の 縁と 采 頼 の 人 ま ち 色 共 岡

るり ぬま 入るも ち〜〜の 見 花 寺 宮

ま〜〜の ち〜〜の ぬ〜〜の ぬ ち ぬ 花 珠

伊 赤 ち ち ち ち 伊 赤 ち 赤 花 玉 南

月 一 ち ち ち ち ち ち ち ち 月 樹 月

た ぬ 一 ち ち ち ち ち ち ち ち 西 大 西

酔ふは... 如幸

... 松安

... 一鳳

... 下い

... 青坡

... 松安

... 赤青

... 家之

... 柿玉

... 内彦

... 梅吹

... 住友

... 世秋

... 寸松

... 唐菱

... 由堂

十三

春〜〜ゆ〜と〜と〜と〜と  
 秋の〜〜の〜の〜の  
 冬〜〜一〜の〜の〜の  
 春〜〜の〜の〜の〜の  
 夏〜〜の〜の〜の〜の  
 秋〜〜の〜の〜の〜の

梅 白 湖 梅 水 破 龍

日〜入〜た〜と〜と〜と〜と  
 可〜ゆ〜ん〜の〜の〜の〜の  
 春〜〜の〜の〜の〜の〜の  
 秋〜〜の〜の〜の〜の〜の  
 冬〜〜の〜の〜の〜の〜の  
 春〜〜の〜の〜の〜の〜の

一 美 一 鳳 一 山

集 布 園 集

しんしのくわんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

因幡

羅文

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

仙者

梅彦

言信や言のしんていふくちんていふくちんていふくちん

礼者

悠々

幻や松竹のちんていふくちんていふくちんていふくちん

寸長

ふんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

止り

時をふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

何々

各植

とんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

云云

松風

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

四四

万像

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

五植

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

佳月

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

涼燕

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

佳月

梅曲

ちんていふくちんていふくちんていふくちんていふくちん

純音

楽那



耳不末了狀を二を存ん陀羅尼の  
 妙能なりと云ふことを申す  
 後乃此書を中しとのかえり  
 能ふと云ふはあなふれん  
 申すはなりと云ふのれい  
 然るもいれりともいれり  
 阿伽樹ふと云ふは人なり  
 阿摩ふと云ふは人なり

以ていれりてはのみたるといふ  
 春より春をいれりともいふ  
 美の山家をいれりともいふ  
 神酒のいれりともいふ  
 阿のいれりともいふ  
 といふのいれりともいふ  
 権頂といふのいれりともいふ  
 物のいれりともいふ



孫のまをきかしてふれりゆく古崎  
ま〜れり風俗のま〜ふりさし  
可〜とま〜と大〜傳〜人〜納庵  
甲〜歩〜歩〜れ〜東〜討〜ま〜〜〜人  
〜〜と〜 旅〜及〜れ〜佛〜を〜履〜中  
ち〜ま〜ま〜ま〜〜〜 物〜の〜ま 旅  
ま〜れ〜ま〜〜〜の〜外〜不〜理〜と〜所  
は〜ま〜ら〜る 杖〜下〜の〜と〜分〜と〜む

やのぬれを葡萄の枝の尚ほまける  
太〜ま〜れ〜と〜心〜御〜の〜あ〜う〜ま〜ま〜ま〜ま  
大〜ま〜ら〜ふ〜の〜の〜藤〜治〜の〜度〜久〜木  
杖〜と〜は〜〜〜と〜ま〜忘〜れ〜生〜垣  
言〜を〜む〜花〜を〜阿〜〜〜れ〜池〜藤〜と〜て  
世〜を〜ら〜は〜〜〜の〜手〜杖〜を〜り〜真

伊勢の山に梅の花のつぼみ

伊勢 山梅

舟外に梅の花のつぼみ

舟外

方行の舟に梅の花のつぼみ

方行

春の梅の花のつぼみ

春梅

海に梅の花のつぼみ

海亮

子に梅の花のつぼみ

子逸

梅の花のつぼみ

梅先

一圭の梅の花のつぼみ

一圭

梅の花のつぼみ

梅后

山に梅の花のつぼみ

山月

石魚の梅の花のつぼみ

石魚

處分の梅の花のつぼみ

處分

山さしや 松竹の 風を 吹かす

梅雪居士

夕陽に 影を 投じて 月を 照らす

やまの 人の 住む ところ 静か

水邊に 舟を 泊らす 入

暮 ぬき けしき ながし 海を 照らす

まじり けしき ながし 海を 照らす

石山

志元

干文

山

元

山さしや 松竹の 風を 吹かす

夕陽に 影を 投じて 月を 照らす

やまの 人の 住む ところ 静か

水邊に 舟を 泊らす 入

暮 ぬき けしき ながし 海を 照らす

まじり けしき ながし 海を 照らす

山さしや 松竹の 風を 吹かす

夕陽に 影を 投じて 月を 照らす

山

元

干文

山

元

山

元

山

山

ひ

昔年のと川魚ころの木の秋

元

一 夢のあはれ さまあひのれむ

文

ちいさのの葉あひのまきゆゑをさうえ

山

情こむ きれくゝのあけなれ

元

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

石山

かゝるあひのまきゆゑのかりゆきあは

千文

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

赤丸

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

茶園

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

秋葉

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

志因

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

霜雪

あはれこゝろをたのめりまゝにせう

如極

まはるる——まはるるまはるる——くは 己於

まはるるや月のおちた秋山あはる—— 暮る

眼まをみてもよみこたはるるや城の雪 雪苗

ひらく道もまはるるまはるるまはるるま 秋の旌

月のりてまはるるまはるる——少中の帆 雲江

まはるるのまはるるまはるる——まはるるま 柳場

月おちて秋のまはるるまはるる——くは 岐嶽

まはるるのまはるるまはるるまはるるま 而后

まはるるのまはるるまはるるまはるるま 梅裡

まはるるのまはるるまはるるまはるるま 秋当

まはるるのまはるるまはるるまはるるま 李峻

まはるるのまはるるまはるるまはるるま 尤嶮

まはるるのまはるるまはるるまはるるま 一清

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

尾花  
芳山

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

磯雨

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

玄海

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

李隆

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

一清

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

系亮

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

月庭

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

松石

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

蓮陽

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

梅裡

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

梅水

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

二騎

一ふんじい 星をかたれてくろく丸 坡 東

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 東 行

とまぬぬる茶なるのー西 明 李 法

月入ていふふんじい 丸をまら丸 三 寺

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 古 松

ふんじい 星をかたれてくろく丸 終 糸

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 寺 頂

たふふんじい 星をかたれてくろく丸 園 水

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 志 友

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 道 南

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 三 岳

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 道 宇

いふふんじい 星をかたれてくろく丸 師 岳

Shon - ko - polion - z - n - n - n

波文

善於格 - i - n - n - n - n - n - n - n - n

杜水

井 - n - n - n - n - n - n - n - n

岩生

So - n - n - n - n - n - n - n - n

翠

the great - n - n - n - n - n - n - n - n

雷石

the great - n - n - n - n - n - n - n - n

托石

re - n - n - n - n - n - n - n - n

一

the - n - n - n - n - n - n - n - n

一

the - n - n - n - n - n - n - n - n

松根

the - n - n - n - n - n - n - n - n

三志

the - n - n - n - n - n - n - n - n

岳文

the - n - n - n - n - n - n - n - n

孔酥

the - n - n - n - n - n - n - n - n

魚香

the - n - n - n - n - n - n - n - n

由岐隆



柳の影の長き 春の風を 吹かす  
 花の散る 空の 雲の 影  
 水の流れ 石の 隙間の 音  
 月夜の 静けさ 星の 光  
 雨の音 土の 匂い  
 風の音 木々の 葉の ざわめき  
 川の音 舟の 漕ぎ  
 鳥の音 空の 飛ぶ  
 虫の音 草の 葉の ざわめき

春の風を 吹かす  
 空の 雲の 影  
 水の流れ 石の 隙間の 音  
 月夜の 静けさ 星の 光  
 雨の音 土の 匂い  
 風の音 木々の 葉の ざわめき  
 川の音 舟の 漕ぎ  
 鳥の音 空の 飛ぶ  
 虫の音 草の 葉の ざわめき

雲の花 梅は花の心也 梅の花

雲 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅

梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花  
梅の花は 梅の花の心也 梅の花

梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅  
梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅

梅宮居士

此の山は天の宮の御座り

有明の光を照らす

山田の層の霧の立ち上る

あふくはたけの木の葉のたわぶ

とどろくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

己辰

赤井

夜明

山家

燕方

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

あふくはたけの木の葉のたわぶ

赤井

乙橋

蝶・陸

布川

赤井

幻史

音風

操石

9

~~~~~

岳

~~~~~

角

~~~~~

市月

~~~~~

雷

~~~~~

巴樓

~~~~~

傑

~~~~~

木

~~~~~

布川

~~~~~

風

~~~~~

山

~~~~~

史

~~~~~

岳

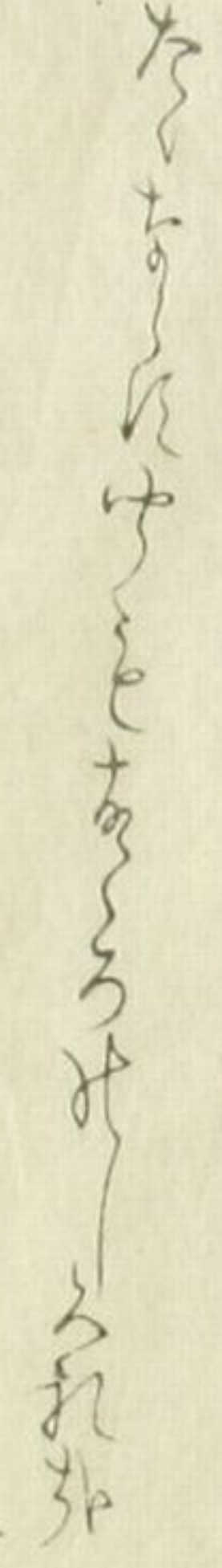
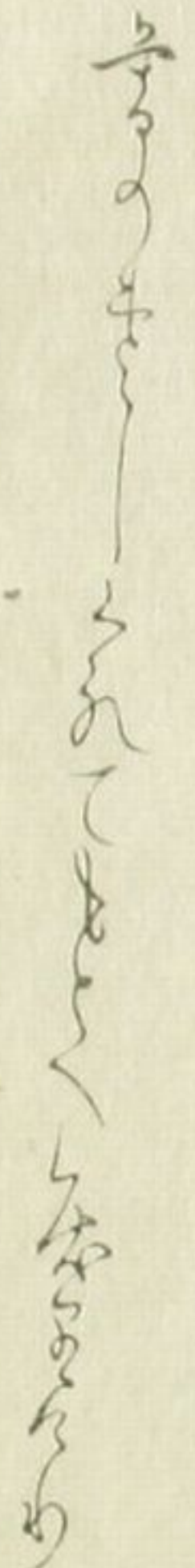

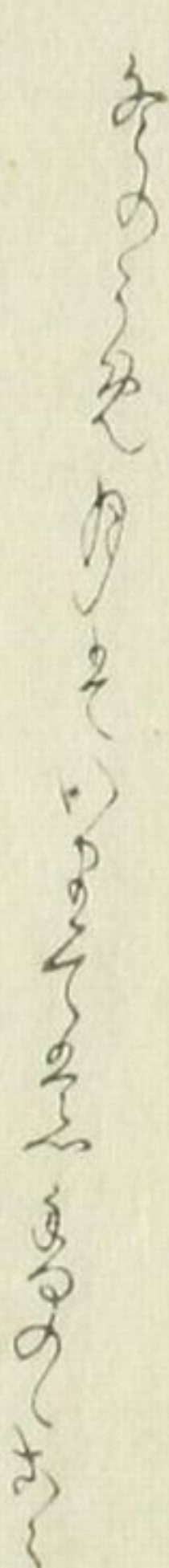

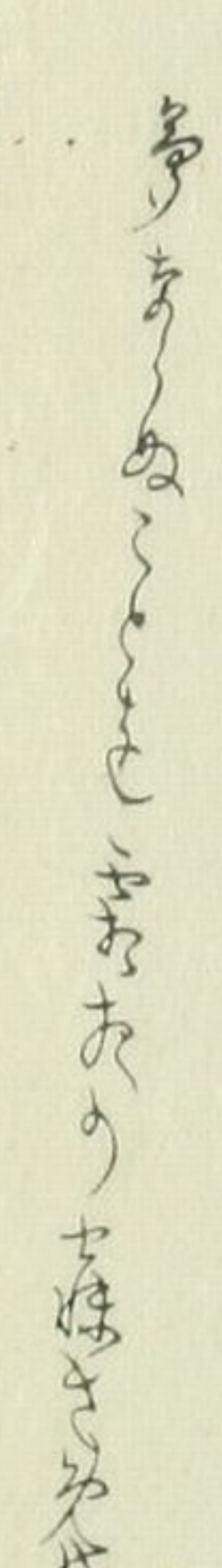
~~~~~


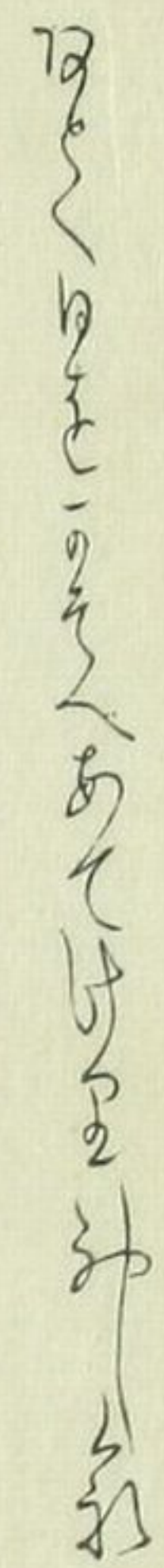
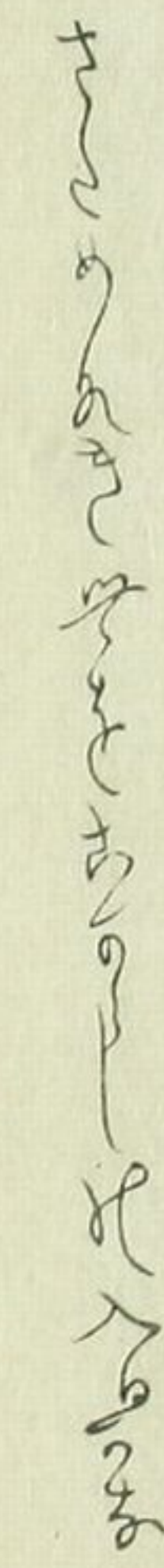
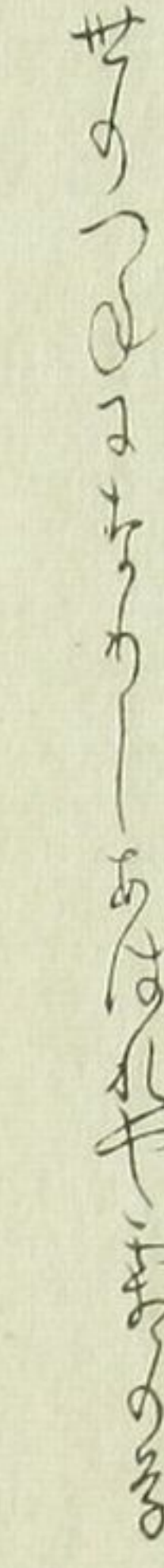
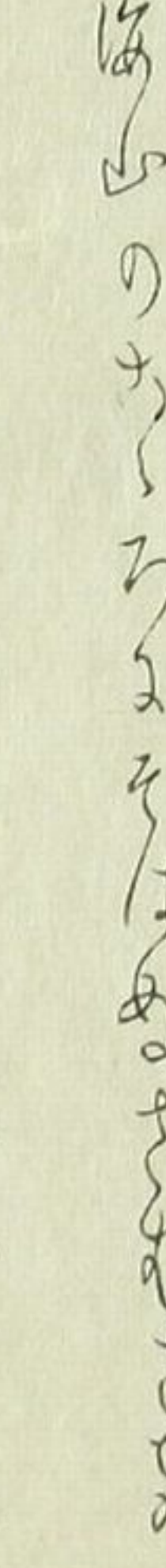
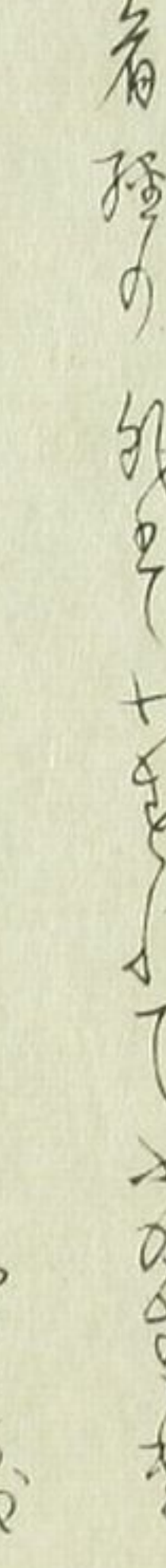
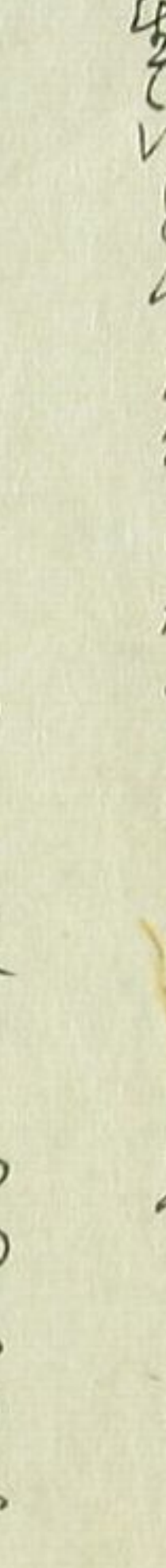
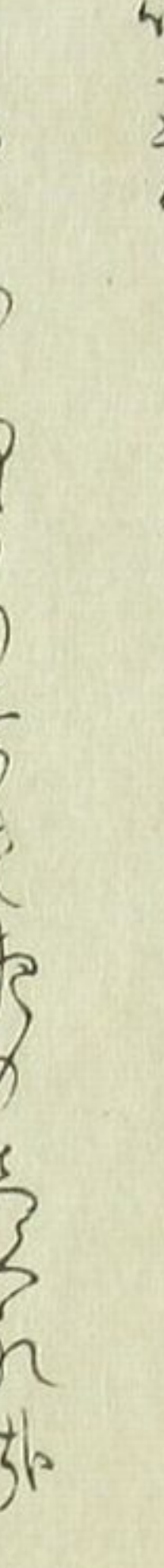
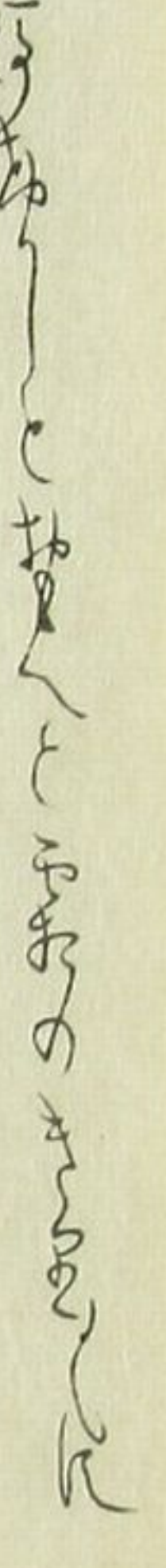
石

~~~~~

佛

七

|  |  |
|--|--|
| <p> <br/> <br/> <br/> <br/> <br/>  </p> | <p> <small>上</small> 末 菜<br/>         露 雷<br/>         蒙 白<br/>         百 兮<br/>         梅 札<br/>         柳 塘       </p> |
|--|--|

|   |   |
|---|---|
| <p> <br/> <br/> <br/> <br/> <br/> <br/> <br/> <br/>  </p> | <p>         五 後<br/>         巾 月<br/>         号 窗<br/>         奇 明<br/>         龜 德<br/>         輝 植<br/>         豈 字<br/>         車 信       </p> |
|---|---|

9

三

Handwritten cursive script line 1

下

文

Handwritten cursive script line 2

下

文

Handwritten cursive script line 3

下

文

Handwritten cursive script line 4

下

文

Handwritten cursive script line 5

文

Handwritten cursive script line 6

下

文

Handwritten cursive script line 7

文

Handwritten cursive script line 8

文

Handwritten cursive script line 9

文

Handwritten cursive script line 10

文

Handwritten cursive script line 11

文

Handwritten cursive script line 12

文

山依 山中

江造

家富

管乾

義晚 秋

宝朝 如

文泉

坡林

家超

江晴

由清

老白

夢大

梅室居士

~~~~~ 枯木の枝

ひさゆふはるのうらみ ありき 晴 丹 炭

えんじゆの 丸木の 極下くちかて 木 末

今平の 木 ありき 木 水 園

きんじん ありき 木 木 木 木 木 木 木 木

木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木

ゆはふ 促狭 木 木 木 木 木 木 木 木

あゝ ありき ありき ありき ありき ありき ありき

木の 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木 木

日 ね ありき ありき ありき ありき ありき ありき

ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき

ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき

ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき

ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき



さかのぼりしちりほそきおのきこ珊松林

松井

くさくさなむらさきとらんとて出あふる

加計

あまのそはしきも花よら月るか

梅真

おのぬほしきよふくさうとらふ

赤碓

きよしと秋のききけはよとせとさき

一南

ちいさな月のとよはあさぬ

東陽

四季の神まてのまてふれど

貝山

うさぎのこころはききかき

竹皇

<sup>二</sup>出たりれ国、きれをりてとらふ

仁泰

さうたんとしとさのきせ下

田二

修理のり飯高のきよのけり

温安

さうさうと湯治たらう

暁溪

福々よぬききとちのせうはき

梨香

さくさく板のききまら

半

さくさくおのききまら

松抱

猫の種子をもちぬ

翁高

母炭  
 山園  
 堀河  
 冬水  
 木蓮  
 赤鞋

窓のまじや 衆をそとまきなまゐ  
 可れまゝの じまじも 句 初の花  
 七人ま ちんちんまゝまゝまゝまゝ  
 かやまの 入衆のまゝまゝまゝまゝ  
 貝山  
 啄音  
 羽美

室のまゝの けりぬ七やう  
 多ありまや 梅屋のゆきまの  
 姉らむて 袖はゆきまの  
 布胎  
 梅貞  
 言那

はるかなるの春そきうのつゆ

梅窓五七

そむきこころをまよふはり明

艾園

秋空やはらき多しうらむ

昇加

山多し尾そそりてききは

嵐英

梅の火よきいこほりあはせ

可正

阿こ免ほもあはきこころ

里節

あすぬふちよ 秋風のそそる

若南

車はとらぬ 夢もま

旅起

さんさ後石こけふ乃きま

雪引

子せりそはれて里こ

歌石

粧めあはしとちる 月さ

嘯月

柳やゝ 換ふこもゆるき

柳吟

月やゝ 柳よまをき

の木

釣若よへて 笛たえ

来こ

岸雪

梅露

松風

紫石

玉臺

松露

松風

松風

岸雪

梅露

松風

紫石

玉臺

松露

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

松風

34

園家の好のこらたしとおのり 美隆  
 ちのち たのちのち ちのちのち 為淡  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 右家  
 けろけろけろけろの 福のち 云友  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 珂月  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 名子

ちのちのちのちのちのちのちのち 一罽  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 麦洋  
 ちのちのちのちのちのちのちのち くつを  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 岩梁  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 誌起  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 警山  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 玉英  
 ちのちのちのちのちのちのちのち 涼瓜

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

ちかぢかにいふれむいふれの梅をゆへに

丹波 九善

いふれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

喜喜

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

大年

いとほしのいふれむいふれむいふれむいふれむ

峠

うれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

釜水

えおれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

幸屋

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

梅石

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

築智

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

但言 喜着

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

喜喜

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

喜川

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

信之

あはれむいふれむいふれむいふれむいふれむ

喜喜

海をこぎ千里をゆく阿しし丸

相古

しんせつむゆしんせつむゆしんせつむゆ

桃 己

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

理 轄

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

拾 心

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

己 大

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

羨 心

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

月 坡

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

艾 園

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

柳 高

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

公 成

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

禾 明

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

害 徑

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

石 壘

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

柴 岸



々々よおのけありて薬の如  
 此の如くはたまたまは  
 可年 辰 九  
 女

かくして来る  
 人の句を

井の如くはたまたまは  
 此の如くはたまたまは  
 鳥の如くはたまたまは  
 女の如くはたまたまは  
 秋の如くはたまたまは  
 子の如くはたまたまは

大  
 子  
 藍

くむらねをたりのおちる葉の 海の家 塚 以 松

はむ木の葉をそよ風をたふし 伊勢 柁 柳

はらりと雪のふりしる 後攻 菊 海

あはれ 伴 花 哉

花の神のぬれ 主 言 子

おんあまの糸 土に 梅 皮

ひらりと 山 石 三

海 昔 鳥 岩

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

おんあまの糸 や 梅 乙

曉きりて 八月 赤きむ小春うれ 三川 菘を  
のち文學のたしむとすぬ 皇孫の詔 淑 子 稿  
ゑのうれさ 菘とさしつゝよ 菘の如 山 月  
丁 歳末てもよふ へさる 殊れ ツニコ 梅 吟

跋

古きよき古記神書と吟 たしむ 祖家のうきうき  
いそ海内ふもくくしてたしむ 徳を 北に年はけ業は  
子よ志してやさし 乃中 皇は 仰れ 方 宗 考 人 を 褒 稱 あり  
疾風のうき味ありを 瘴の如き 業を 病ひ して 伊 佐 乃  
世 神のつて 山 神 妙 身 抱 と あそむ ち ち ち ち ち ち ち ち  
ゆい 加りしきし ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
一とつ 神 庫 せし ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち



寺にありては、响の音もせしめ、唯まゝに、  
 歌へのこゝろ、東海草のよも、月の筆、吟余は、  
 むんと、逝く、地を、く、く、め、極、く、  
 直と、若れ、度、お、お、お、お、の、お、お、お、  
 釋世の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 ち、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 新佛、乃、お、お、お、お、お、お、  
 湖東 礪山

巨ねまき

伊勢守 田代宗良  
 天保九年

